



インターネットの交流サイト「フェイスブック」を使い、まちの活性化に取り組む高校生たちがいる。小林秀峰高等学校の商業科と経営情報科の3年生28人。フェイスブックの特徴は「みんながつながること」と話す中村絵美香さん（＝細野中出身）。地元のお店や個人が、互いの情報を共有し、「つながる」ことで地域を元気にできないかと、研究を続けている。

主な活動は、お店などがページを開設する際の手伝いや、初心者向けの使い方講座、利用を促進するミニのぼりやうちわを配布する

Facebookフェイスブックで地域活性化に挑む 小林秀峰高等学校 商業科・経営情報科3年生

「フェイスブック」で地域活性化に取り組む秀峰高校の活動が注目を集めている。「ミニのぼり大作戦!」、「うちわ大作戦!」、「Movie 大作戦!」…。次々と新しい企画を発信する生徒たちの活動を紹介します。

1 「うちわ大作戦!」野尻町観光協会にもうちわを配布した
2 新たに取り組んでいる「ムービー大作戦!」CM作成に悪戦苦闘中だ

キャンペーンなど。フェイスブックは、10億人以上が利用する世界最大の交流サイト。サイト内で確認できる情報によると、6月17日現在、国内の登録者数は、約1,320万人で、県内は約8万人。小林市周辺では、約2,600人とみられている。

登録は無料で、ページの「いいね!」ボタンを押すなどして互いにつながり、情報が拡散していく仕組み。ページはインターネットの検索対象にもなるため、企業や著名人などで活用が広がっている。

商業科・経営情報科で、地域に貢献できることとしてフェイスブックの活用を立案したのは、顧問の黒木庄吾先生。3年生が行う課題研究の一環で、昨年からは研究が始まった。

橋口伸一さん（＝西小林中出身）は、飲食店など市内2店舗のページ開設を手伝った。「地元西小林のお店からも依頼があれば、ぜひお手伝いしたい」と精

力的だ。開設などの相談は、随時受け付けている。

企業だけでなく、個人での利用価値も高い。中村絵美香さんは「自分の情報を友達に広く知らせ、自分も多くの友達の情報を知ることができると魅力を語る。その魅力を多くの人で共有しよう」と、初心者向けの講座も実施中だ。

秀峰高校のページを運営することも活動の一つ。研究の報告などを投稿し、同ページのファン数も、現在980と人気。黒木香奈さん（＝東方中出身）は「もっと読んでもらうため、部活や生徒の活躍も紹介している。ファンの数1000を目指す」と意気込む。

活動や取材でまちに出向くことも多い。黒木先生は、「ネットのつながりだけではなく、生徒がまちに出ていき、地元の人と交流することこそが尊い経験」と期待を寄せている。

人と人のつながりやまちを元気に。32人の大きな挑戦に注目していきたい。

いいね!

小林秀峰高校 Facebook



自作したフェイスブックうちわ。ページを開設している店名を印刷し商店などに配布している。限定150本

市内の商店などに設置したミニのぼり。このぼりはフェイスブックを利用しているお店の目印に

